



令和6年度 沖縄県学力向上推進本部会議からの提言

多様な幼児児童生徒に「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育むために



本県の幼児児童生徒に新しい時代を創るために必要とされる資質・能力を育むために『沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』（以下「P・PⅡ」と略す）（令和2～6年度）に示す「授業改善」「学校改善」に重点を置き、学校・家庭・地域・行政が連携・協働した取組を推進しましょう。



多様な幼児児童生徒の自立に向けた、魅力ある園・学校を目指して

提言1 「魅力ある学校づくり」の推進

【方策1・2・3・4】

～安全・安心が確保され、多様な児童生徒が
「学校づくり」に主体的に関わる学校文化の形成～

- 支持的風土（互いに認め合い、支え合う集団）づくりの4つのポイントを踏まえた教育活動の推進 ①安心 ②所属 ③承認 ④自立
- 生徒指導の4つのポイントを生かした授業づくり
 - ①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成
 - ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成
- 学級活動と連動した児童会・生徒会活動の充実及び「自治意識」の醸成

コロナ禍を乗り越え、「魅力ある学校づくり」を推進するため、学校、学級における支持的風土（互いに認め合い、支えあう集団）の醸成や、自己決定の要素が含まれた授業や教育活動等の展開を推進しましょう。



提言2 授業の質的改善と学校改善の推進

【方策1・2・4】

～多様な他者と関わりながら、課題の解決に向かう、
「問い」が生まれる授業づくり～

- 単元を見通した授業デザインによる「問い」が生まれる授業の実践
- 「指導と評価の一体化」を目指した授業への改善
- 学校の特色を生かしたカリキュラムマネジメントの充実

多様な児童生徒一人一人が、自分のよさに気づき、可能性を伸ばしながら、主体性を持って取り組めるような、授業の質的改善を進めるとともに、カリキュラムマネジメントを充実させることをとおして、学校改善へ向けた組織的な取組を推進しましょう。



提言3 「夢・なりたい自分」の実現へ向けた キャリア教育の充実

【方策3・5】

～教育活動全体を通した、多様な幼児児童生徒の
「キャリア形成」の促進～

- 「夢・なりたい自分」の実現に向けて、目的意識をもって、授業や特別活動等に取り組む児童生徒の育成
- 「キャリア・パスポート」の活用促進
- 自立して学ぶ児童生徒の育成に向けた「自学自習力」の育成

多様な幼児児童生徒が、将来、社会で自分自身のよさを発揮し、自立に向けた生き方を追求できるよう、教育活動全体で「キャリア教育」を推進しましょう。



提言4 体力の向上及び部活動等の充実と 地域移行の推進

【方策1・5】

～多様な幼児児童生徒の運動・スポーツ、
芸術文化等に親しむ意欲・態度の育成～

- 生涯にわたって運動・スポーツ等を愛好していく意欲・態度を育てる体育・保健体育授業等の工夫改善
- 各学校（園）における「一校（園）一運動」の充実
- 休日の中学校部活動の段階的な地域連携・地域移行の推進

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するため、運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成する体育・保健体育の授業を工夫改善し、充実を図りましょう。

また、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値が創出されるよう休日の中学校部活動の段階的な地域連携・地域移行を推進しましょう。



提言5 質の高い幼児教育及び 円滑な幼小接続の推進

【方策1・3・5】

～質の高い幼児教育と小学校教育の接続～

- 計画的な園内研修・公開保育の充実（幼児教育）
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた教育・保育の充実（幼児教育）
- 幼児期終わりまでに育ってほしい姿と各園・学校や地域の創意工夫を生かした幼保小の架け橋プログラムの開発促進（幼児教育・小学校教育）

幼児教育において、遊びを通じて学ぶ幼児期の特性を小学校・家庭・地域と共有し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた教育・保育を充実することで、意欲、協調性、コミュニケーション能力等の数値化出来ない「非認知能力」を育むことが大切です。小学校においては、5歳児と小学校1年生を架け橋として一体的に捉え、連携してカリキュラムを開発、実施していくことが重要です。

本県の子ども・子育て支援の基本方針である『黄金っ子応援プラン』を推進しながら、その充実を図りましょう。



学校・家庭・地域等の連携・協働を通して

提言6 持続可能な社会の創り手としての幼児児童 生徒の育成に向けた、学校・家庭・地域等 の連携・協働の推進

【方策5】

～SDGsを意識し、学校・家庭・地域等で役割を
分かち合い、連携・協働した教育活動の充実～

- 規則正しい生活リズムの確立
- スマートフォンやタブレット等の利用ルールの設定と情報モラルの遵守
- 毎月第3日曜日・ファミリー読書の日の推進
- 地域学校協働活動の推進

保護者や地域の方が学校運営や教育活動へ参画することにより、学校教育目標や教育課程を通じて子供達に育みたい資質・能力を共有し、連携・協働しながら役割を分かち合い、SDGsを意識した「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しましょう。



未来の教育を見据えて

提言7 社会の変化を捉えた教育の実現

～多様な幼児児童生徒一人一人の
可能性を引き出す学びの実現～

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

今後、急速に変化する社会においては、様々な分野で多くの学びの選択肢が広がっていくことが予想されます。教師の支援やICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、多様な幼児児童生徒一人一人に付けたい資質・能力を確実に育み、可能性を引き出す学びの実現に取り組みしましょう。

教育行政においては、国の動向等を捉えつつ、所管の学校・家庭・地域の現状を把握して、成果と課題を共有し、それぞれの役割や特徴を捉えて相互の調整・連携・協力を図っていきましょう。

※参考

中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』



※【 】内は、各提言に対応する「P・PⅡ」の各方策との主な関連を示しています

※P・PⅡにおける「総括期」である令和6年度も、7つの提言を実現するための「重点事項」を、引き続き推進します（別紙参照）